

「デジタル連絡帳アプリ」による 教育支援連携システムの構築とその評価

— 児童・保護者・教師・学校に対する「効果」から —
中川 宣子

(京都教育大学附属特別支援学校)

KEY WORDS: 「デジタル連絡帳アプリ」, 教育支援連携, 保護者・教師・学校

〔目的〕

特別支援教育において、家庭・学校間の連携、協力は不可欠であり、そのためには児童・生徒の情報を互いに伝達し合い、正確に理解し、情報を共有化して、教育支援活動を行うことが重要である。しかし現状は、日々の児童・生徒の学習情報や、保護者・教師による教育支援情報が十分に共有できずに問題が生じている。そこで筆者らはこれまで「デジタル連絡帳アプリ（特別支援 ICT 研究会）」を利活用した教育支援連携システムを提案してきた。このシステムを特別支援学校で導入すれば、保護者・教師・学校の三位一体の教育支援連携活動をより強化でき、児童・生徒の成長・発達に大きく貢献できると考えている。

本稿では、「デジタル連絡帳アプリ」による教育支援連携システムを特別支援学校で利活用した上で、児童、保護者、担任教師、学校に対する「効果」について検討する。

〔方法〕

1) 「デジタル連絡帳アプリ」とは

「デジタル連絡帳アプリ」とは、児童・生徒の健康状態、就寝・起床時刻、排便、食事等の健康情報や下校お迎え等の連絡内容に加え、家庭学習の様子、学校での学習の様子を、文字、写真、動画、音声、イラストを使って、リアルタイムに送受信できる。さらにこれらの情報を蓄積し、データ化して、児童・保護者・教師・学校が活用できるアプリケーション・システムである。

2) 実施状況

- ①対象：K 特別支援学校（知的障害）小学部
児童（保護者）：低学年、中学年 2 クラス 12 名
教師：担任教師 2 人
学校：副担任と管理職 計 6 人
- ②期間：2016 年 4 月～2017 年 3 月

3) 調査方法

「デジタル連絡帳アプリ」を活用した教育支援連携活動が、児童、教師、学校、保護者それぞれに与える影響を「効果」と位置づけ、次の①～④に分類し、検証を試みる。

①児童の成長・発達に対する「効果」の調査方法

児童の成長・発達に対する「効果」を、児童の行動や意識の変化を捉え、学習指導要領改定案がめざす「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」で分析する。「デジタル連絡帳アプリ」は授業「朝の会」の教材として活用する。

②担任教師に対する「効果」の調査方法

担任教師を対象としたインタビューを実施し、活用によって児童への指導観、保護者・学校との協力関係についての変容を教師の意識（自己評価）に基づいて分析する。

③学校に対する「効果」の調査方法

担任外教師（副担任、管理職等）を対象としたインタビューを実施し、活用に関する意見を分析する。

④保護者に対する「効果」の調査方法

保護者に対する質問紙調査を実施し、児童への学習観や関与の変化、また学校に対する関心や協力関係を分析する。

〔結果〕

1) 児童の成長・発達に対する「効果」

①「知識・技能」の習得

○情報への興味関心が高まり、数字や時刻、文字を理解、読めるようになった。○マウスを使った PC を操作ができるようになった。○映像から知識が広がり、学習意欲が高まった。○家庭学習の機会、経験が増えた。

②「思考力・判断力・表現力」の高まり

○映像を指さしながら自発的に語り始める児童が増えた。○映像を手がかりにして、場面や様子を思考し、自分の経験を重ね合わせて仕草や言葉で表現する児童が増えた。○友達や家族とのコミュニケーションが活発になった。

③「学びに向かう力」の育成

○自発的に集まるようになった。○教材に注目する、集団に参加するという学習態度が身に付いた。○児童が褒められる機会が増えた。○次学習への意欲が高まった。

2) 担任教師に対する「効果」

○学習活動、教材教具、集団の様子、支援について簡単に伝えられた。○具体的な学習内容・学習活動に関する情報を、児童、保護者、家族と共有でき、家庭でも事前事後学習が行われ有効だった。○家庭での児童の情報が得られ、児童理解や家庭支援への理解が深まった。○児童や保護者と共通の話題が増えた。○担任以外の教師とも、児童の情報が共有でき、共に指導、支援を考えることができた。

3) 学校に対する「効果」

○児童達の ICT 活用への期待感を感じた。○児童同士の理解の深まりが見られた。○児童の家庭の様子を知ることができた。○ラーニングコスト、写真等個人情報の取り扱い、保護者・教師格差が懸念される。

4) 保護者に対する「効果」

○学校での姿、表情、成長が見られた。○昨年の様子と成長比較できた。○家庭の様子をリアルに伝えられた。○子ども達が毎朝楽しみにしていることが嬉しかった。○コミュニケーションがスムーズになり、家族も本人も不安や葛藤が少なくなった。○母親間の誤解が少なく、他の子も理解し合えるように感じた。

〔考察〕

「デジタル連絡帳アプリ」の利活用によって、保護者・教師・学校間の児童の情報は、より可視化され、共有できるようになった。そしてこのことが、児童、教師、学校、保護者間の協働的な学び・育ちとなり、教育支援連携活動を強化し、児童の成長・発達に貢献できたと考えられる。

〔参考資料〕

1. 「デジタル連絡帳アプリ」についての詳細は、『特別支援 ICT 研究会ホームページ』を参照。
2. 中川宣子 (2016) 「朝の会「デジタル連絡帳アプリ」を使って、繋がろう！語ろう！認め合おう！」. 『知的障害特別支援学校の ICT を活用した授業づくり』. ジアース教育新社. 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著.

(NAKAGAWA Noriko)